

合成ピレスロイド剤が効かなくなったワタアブラムシへの防除薬剤

農業研究センター 果樹研究所 病虫化学部

研究のねらい

合成ピレスロイド剤はワタアブラムシに効果が高く、これまで本害虫の防除薬剤として広く利用されてきた。しかし、平成元年以降ワタアブラムシに対する合成ピレスロイド剤の効果が著しく低下し、現場で問題となっている。

そこで、県下のワタアブラムシに対する合成ピレスロイド剤とその他のアブラムシ剤の効果を知り、防除対策を立てるため、ナシおよびカンキツの主産地からワタアブラムシを採集し効果を調査した。

研究の成果

1. フルバリネート水和剤などの合成ピレスロイド剤のワタアブラムシに対する効果は、ナシ、ミカンとも低く、これらの農薬をワタアブラムシの防除に利用することは困難である。
2. 合成ピレスロイド剤の効果が低下したワタアブラムシに対しては、DDVP乳剤、MEP乳剤、NAC水和剤の効果が高かった。しかし、いずれの農薬も効果の低いほ場がみられた。
3. 現場ほ場では、それぞれの薬剤に効果が低下したワタアブラムシが混在し、発生しており、一種類の薬剤を散布するだけでは安定した高い効果は期待できないことがある。このため、高い効果を得るためには、MEP・NAC水和剤やホサロン・DDVP乳剤のように作用の異なる2つの薬剤を混合した農薬や、作用の異なる農薬の混用散布をする必要がある。

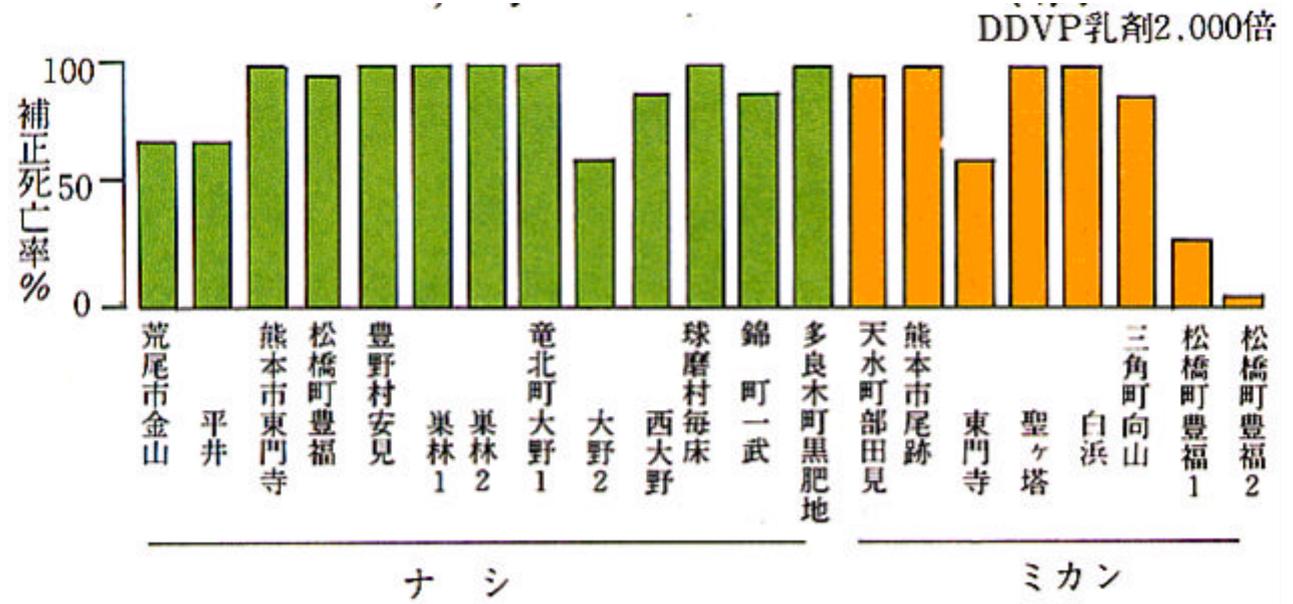
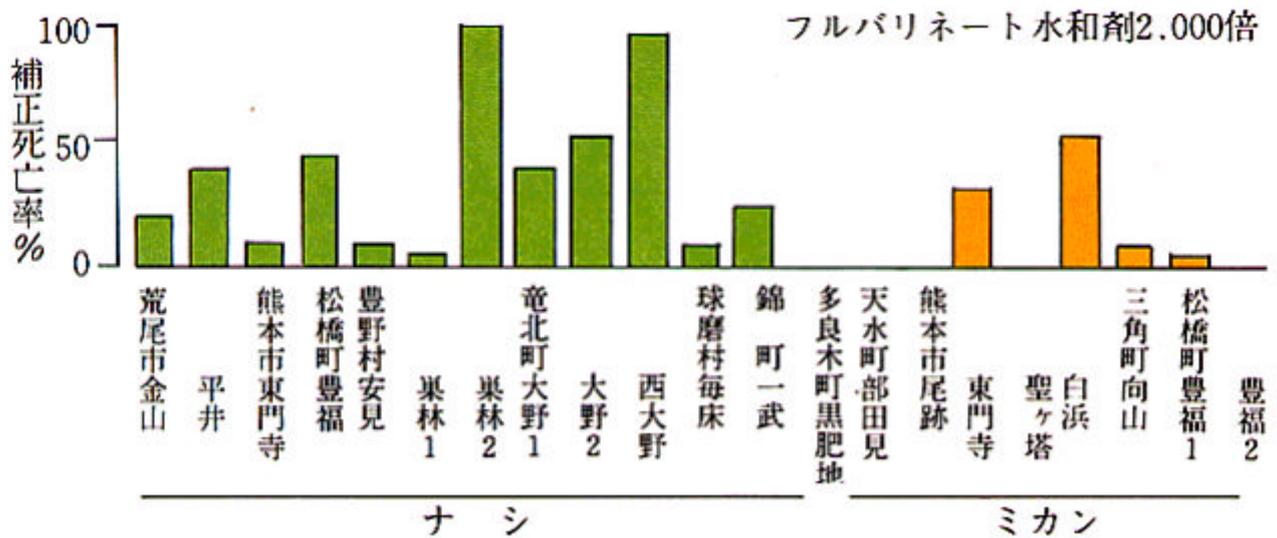
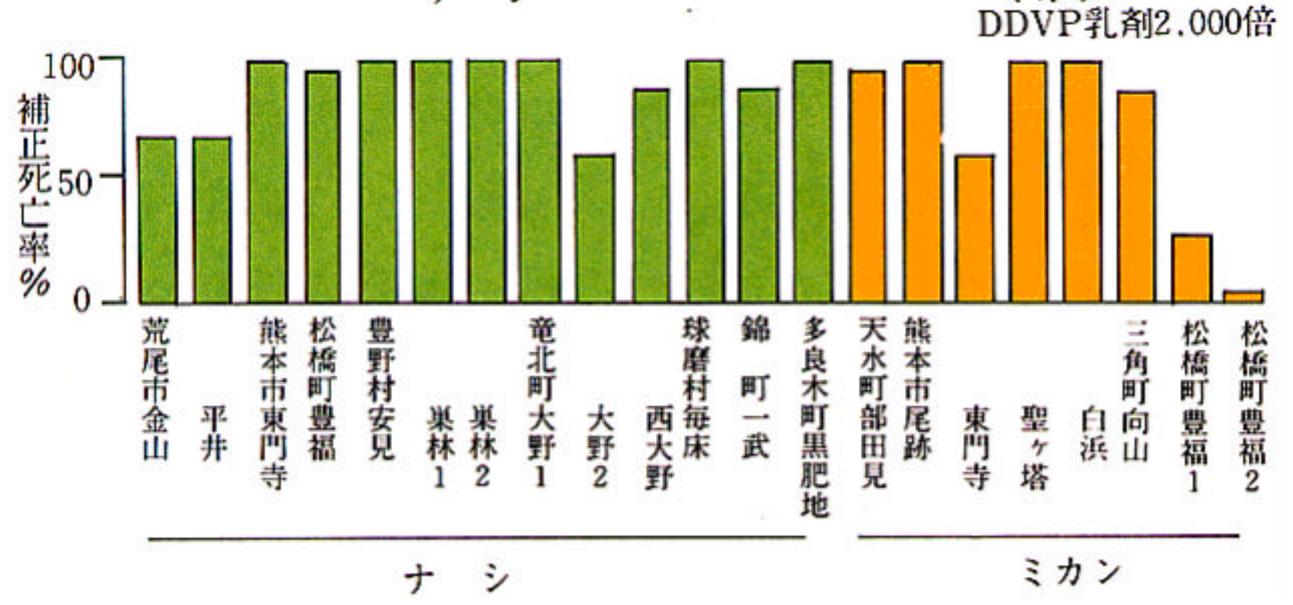


図1-2 県内各地から採集したワタアブラムシに対する4種薬剤の効果



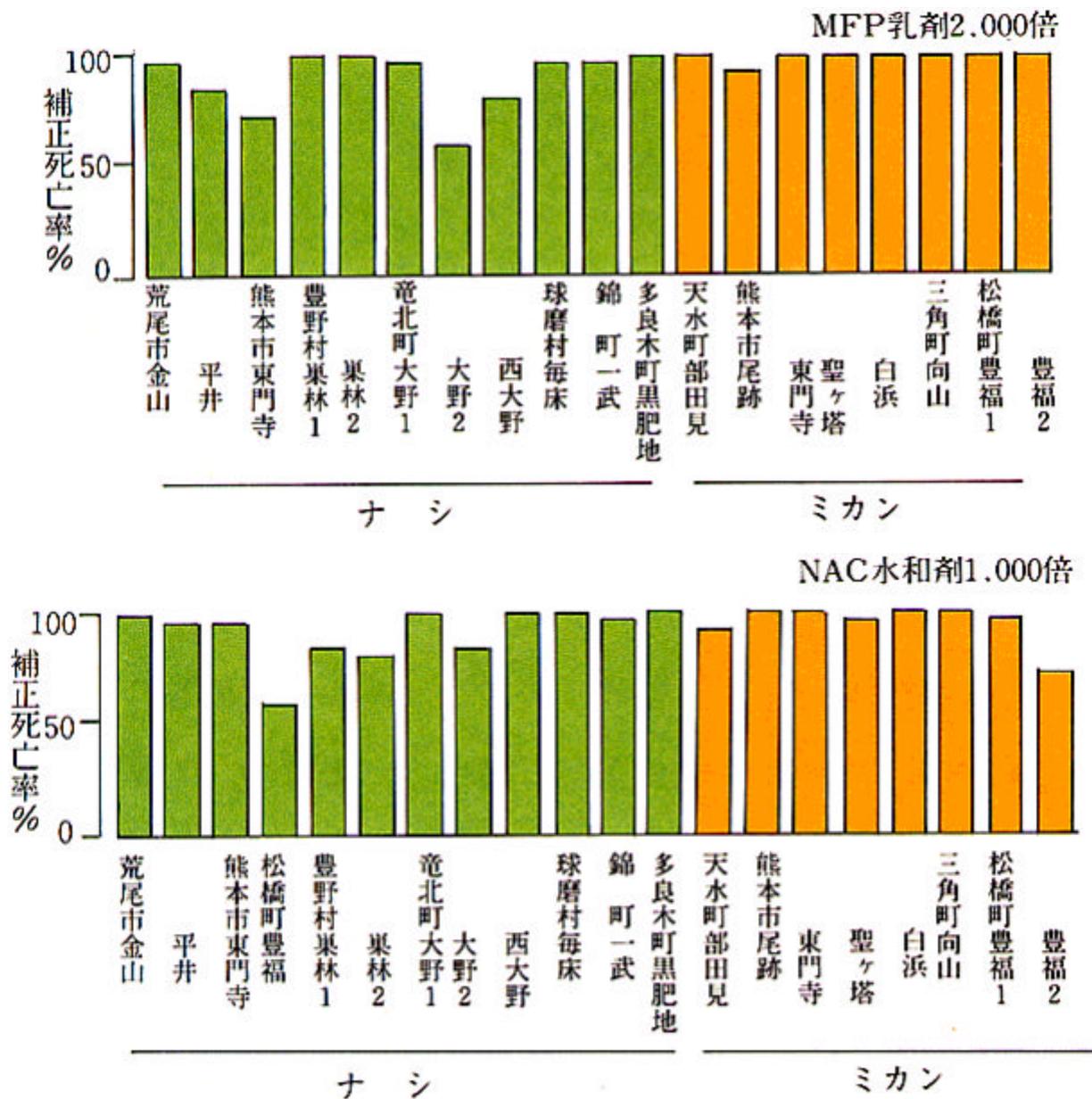


図3-4 県内各地から採集したワタアブラムシに対する4種薬剤の効果